

第55回日本網膜硝子体学会のご案内

第55回日本網膜硝子体学会総会を東京の渋谷で開催させていただくことになりました。

皆様からは様々な形でサポートいただいております、誠に感謝申し上げます。

日曜日には、コメディカルを対象に網膜硝子体の検査法についての教育セミナーをおこないます。

ワンデーパーで参加できますので、コメディカルの皆様も是非ご参加ください。

多くの皆様のご参加を心からお待ちしております。



会期: 2016年12月2日(金)~4日(日)

会場: ベルサール渋谷ガーデン

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町16-17

住友不動産渋谷ガーデンタワー1F・B1F

TEL: 03-5428-5581

主なプログラム

招待講演: Complications of Vitrectomy for Retinal Detachment

演者 Stanley Chang (Columbia Univ.)

シンポジウム1: 疾患登録事業の夜明け

シンポジウム2: Surgical Treatment for Severe Vitreoretinal Diseases

シンポジウム3: Fundus Imaging in Diagnosis and Treatment

教育セミナー1: 裂孔原性網膜剥離手術の基本

教育セミナー2: 網膜硝子体疾患の検査法

イベント情報

<第18回西東京眼科フォーラム>

2016年11月16日(水) 19:00 ~ 21:00 場所: 吉祥寺第一ホテル8F 飛鳥の間

会費: 1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「角結膜の外科的治療アップデート」 島崎潤先生 (東京歯科大学市川総合病院眼科 教授)

<第8回東京多摩眼科連携セミナー>

2017年4月15日(土) 14:30 ~ 17:00 場所: 杏林大学 大学院講堂

会費: 1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「皮膚科疾患関連(仮)」 大山学先生 (杏林大学医学部皮膚科学教室 教授)

編集部からのコメント

画像検査の著しい進歩は大きく眼科診療に貢献し、診療体制まで変化してきています。視能訓練士が眼科医のパートナーとして果たす役割は益々幅広くなり、新人検査員も最新の機械に積極的に取り組んでいます。本年度に入局した望月医師、山田医師もORTとともに色々な検査を習得しつつあります。若いアイセンターメンバーをどうぞよろしくお願いいたします。来月の網膜硝子体学会にも多数の参加をお待ちしています!(AH)

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 49
Fall
2016

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆視能訓練士の紹介 (ORT: 名畑 浩昌) <1-2> ◆フォトアルバム <3>
- ◆新たな検査器機の導入 (ORT: 榎本 はるみ) <2-3> ◆第55回日本網膜硝子体学会のご案内 <4>
- ◆最近の学術的活動 (ORT) <3> ◆イベント情報 <4>
- ◆フレッシュマン自己紹介 <3> ◆編集部からのコメント <4>

<執筆者: 括弧に明記 production: 渡邊交世、中山真紀子、仲野みずき>

視能訓練士の紹介 (ORT: 名畑 浩昌)

私たち杏林アイセンター視能訓練士(ORT)は、設立当初の常勤3名から現在の常勤17名、非常勤3名という、全国でも有数の大所帯にまで成長してまいりました。今年は常勤2名が入職し、現在一生懸命業務を覚えているところです。

業務は主に、診療の基本となる視力、眼圧、視野検査などの一般検査を始め、斜視弱視、蛍光眼底造影検査、電気生理検査などの特殊検査、術前検査、人間ドック検査などを行っております。



後列左から鈴木駿、藤原海渡、秋山陽一、田部真記子、利根川美香、池田愛、梶浦純子、照井祐佳、関口愛
前列左から百田陽介、玉田俊介、高橋あずさ、名畑浩昌、菅井順子、榎本はるみ、堀井史代



今年入職のORT(左から玉田俊介、荒地里江)

ここ数年の外来予約数は一日に平均250~300件、多い日で400件を超える件数となっており、視能訓練士が増員した現在も毎日フル稼働の状態です。小児外来では週に100件弱の予約があり、特に小児眼科外来のある金曜日は常に待合室がお子様で賑わっています。そんな日々混雑している外来の中、検査を正確かつスピーディーに、さらに各々がスキルアップも行っていかなければならないため、検査の分野を『眼底写真』『OCT(光干渉断層計)』『視野』『視力・眼鏡』『斜視弱視』『電気生理』の6つに分け、各分野に責任者をおき、その責任者を中心に検査手技を後輩に指導したり、先生と検査やオーダー方法についてのやりとりを行ったりと工夫し、日々の業務に勤めております。様々な分野の外来があるというアイセンターの特色から、オールマイティに疾患や検査についての知識が必要となるので、皆各分野の情報のアップデートに励んでおります。また、学会や月に数回ある各専門外来の勉強会への参加や、月に一度山田教授、鈴木先生、浜先生のご指導のもとORTが主体となり小児カンファレンスを行っています。最近では、日本弱視斜視学会での発表や日本眼科写真研究会での講演、また演題を出される先生のサポート等も行ってきました。また、随時他施設からの見学者や研修者を受け入れたり、毎年視能訓練士養成校2施設から実習生を受け入れており、実際に臨床の現場で患者さんと触れ合い、座学では学ぶことが出来ない経験を通し将来の視能訓練士となるための第一歩を指導させて頂いております。(次ページに続く)

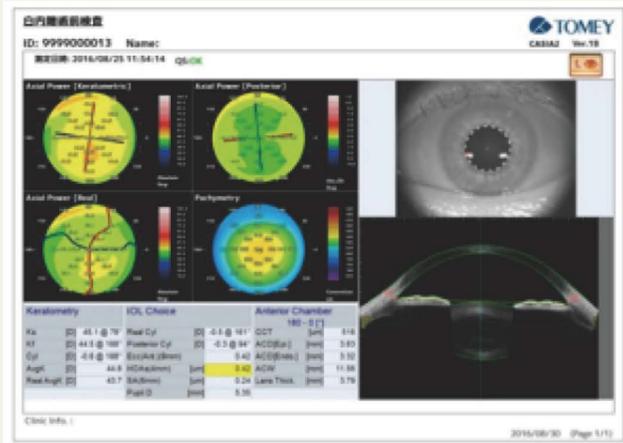
日々の外来で忙しく大変ではありますが、納涼会や忘年会、医局旅行などの楽しい会を通して先生方やスタッフ間のコミュニケーションを深めています。今後もより良いチーム医療の中、質の高い検査を提供できるよう ORT 一同努力していきたいと思っております。

新たな検査器機の導入(ORT:榎本 はるみ)

近年、画像検査を含めた眼科の検査機器は日々改良され進歩しています。杏林アイセンターでも来年の拡張に向け新しい検査機器の導入を進めています。そこで最近導入した検査機器についていくつかご紹介します。

① CASIA2

これまで前眼部 OCT として使用していた CASIA から新たな機能が追加され、バージョンアップしたものが CASIA2 です。CASIA は主に角膜、前房、隅角までの撮影が可能でしたが、CASIA2 では水晶体後面まで撮影が可能となり、IOL 脱臼、IOL 落下や水晶体偏位などの水晶体の病態を画像として記録できるようになりました。また、OA2000 とリンクすることにより LASIK 眼の白内障術前検査が以前に比べ正確に行えるようになりました。まだ新しい器械なので、今後の研究などにも役立つことが期待されます



CASIA2 白内障術前検査解析



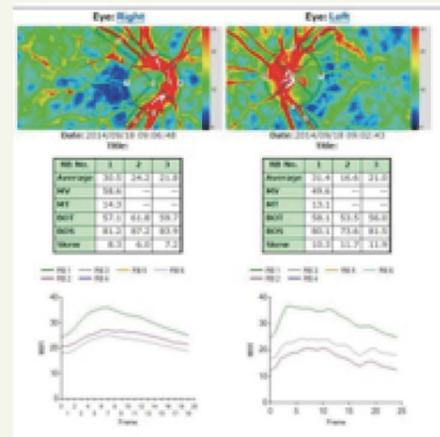
CASIA2

② LSFG (laser speckle flowgraphy)

近赤外光を使用し、網膜や脈絡膜の血流動態を非侵襲的にかつ定量的に測定できます。レーザーの散乱光が干渉しあうことで生じるスペックル模様、血流が早ければブレてコントラストが低下するという特性を利用し、血流相対値を定量化・画像化しています。

毎回同じ条件で撮影するためのフォローアップ機能（同じポイントでの撮影や解析が可能）が付いています。このため検者による変動がなく、信頼性が高い検査となります。黄斑部や視神経、視神経乳頭周辺の血管を解析し、病態を数値化していきます。

主に網膜血管の閉塞や狭窄の判定、視神経炎などの視神経乳頭の血流動態の経過、原田病などの脈絡膜疾患の血流動態の経過を診ていくのに有用な検査です。



LSFG 視神経乳頭周辺解析



ORTE

③ ORTe

斜視、弱視の検査の種類は多くありますが、大きく分けて視力屈折検査、眼位検査、両眼視機能検査があり、ORTE にはこれら全ての検査機能が付いています。全ての検査において偏光眼鏡を用い、両眼分離をした状態で検査を行いますので日常視とは少し異なりますが、小児の検査をするにあたり、ゲーム感覚でできるという利点があります。

ORTE には斜視、弱視の訓練機能も付いていますので、今後訓練について勉強しながら活用していきたいと考えております。

④ RETeval

これまで使用していた据え置き型の ERG は散瞳し、仰向けの状態で行っていましたが、RETeval は手持ちなので散瞳せず座った状態で検査ができます。また、皮膚電極なので直接眼に触れることなく検査ができ、小児にも有用です。検査時間は据え置き型のものと同じくらいかかりますが、患者さんへの負担は少なくなりました。この2つの ERG を使い分け、検査の幅を広げていけたらと思います。

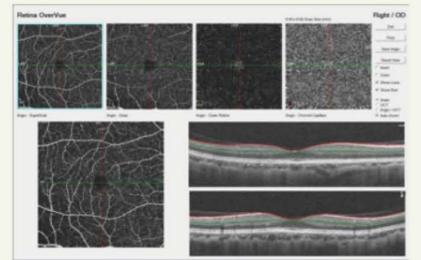


RETeval

⑤ OCTangiography

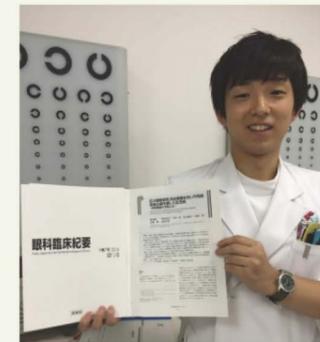
OCT angiography は LSFG と同様、造影剤を用いずに短時間で脈絡膜血管の循環まで撮影できます。毛細血管瘤、新生血管や無血管領域の検出に有用な検査で、糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症などの血管病変に有用です。当院では現在 Avanti の RTVue、NIDEK、SSOCT を使用していますが、11月より Carl Zeiss の PLEX Elite9000 が導入される予定です。解析機能も日々新しくなっているので、これまで以上に様々な疾患の診断に役立つと思っています。

今後新しい検査機器が増えていく中で、新たな検査機器にも柔軟に対応できるよう、ORT 一同知識を増やし、理解を深め、日々の臨床や研究にも活かしていきたいと考えております。



OCTangiography 黄斑解析

最近の学術的活動 (ORT)



山田教授、富田香先生、鈴木先生ご指導のもと眼科臨床紀要に採択 (ORT 秋山) 『巨大眼瞼部乳児血管腫を伴い不同視弱視治療を要した乳児例』



日本眼科写真研究会での講演発表 (ORT 名畑) 『蛍光眼底造影検査～ぶどう膜炎の撮影ポイント～』

フレッシュマン自己紹介 (山田 健司)



本年度杏林大学医学部附属病院眼科に入局致しました、山田健司と申します。大学から杏林大学で学ばせていただき、卒業後初期研修は母校である杏林大学医学部附属病院で研修をし、様々な科で勉強させていただきました。眼科入局を決めたのは、父が眼科医で幼少期より眼科に触れる機会が多く、アイセンターという素晴らしい環境が魅力的だったためです。

現在、多くの症例を経験できる環境で、手術、診察を学ばせていただいています。まだまだ分からないことがたくさんありますが、日々素晴らしい先生方の御指導を受け、眼科医として成長できる様に日々努力していきたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

アイセンターフォトアルバム



ロービジョン学会にて



眼科サマーキャンプ



International Symposium of Uveitis (ダブリン)